



2015年1月25日

いま起きつつあること…



初めての靖国神社

2014年11月29日(土)
小雨の降る中、神学・社会委員会主催の平和スタディツアーに参加しました。今回の訪問先は靖国神社。靖国神社に足を踏み入れるのは初めての経験でした。

知識の浅い私にとっての靖国神社とは、奉納相撲が行われる場所・A級戦犯が合祀されている場所・首相が参拝する度に波紋を起こしている場所程度の認識しかありませんでした。

第一鳥居(大鳥居)前に集

合だったのですが、少し早く着いてしまったので、ちょっとしたでも知識を高めようと散歩をしていると、外苑休憩所があり土産物が置いてありました。靖国神社ではどのような土産物が置かれているのか店内を見ると、〈晋ちゃんのおもてなし〉、〈晋撃の大臣〉、〈ねじれかいしよもち(晋ちゃん)の野望〉といった安倍晋三首相関連のお菓子がメインに売られていて、ますます訳が分からなくなってしまうました。

靖国神社見学

時間になったので、大鳥居前に行ってみると、小雨にもかかわらず中会関係の方が23人も集まっておりました。今回の靖国神社ツアーガイドは西川重則さんという方で御年87歳。声は少し小さいものの、精力的な方です。

大鳥居を潜り、靖国神社に

合祀されている大村益次郎銅像の横を通り、いよいよ第二鳥居へ。その横には大きな灯笼があり、向かって右側には海軍の、左には陸軍の功績を称えたレリーフがありました。その先には神門と呼ばれる門があり、帰る人たちが拜殿に向かつて深々とお辞儀をしています。拜殿の奥には本殿が見えます。

ここで不思議な光景を目の当たりにしました。外国人観光客が写真撮影をしていると、ガードマンが「正中線だから、斜めから撮影してください」と注意しているのです。外国人観光客はポカンとして、意味が分からない様子でした。私自身も正中線とやらが分からないので、調べてみると、正中線とは、神の通り道とされているそう、正中線上で、神座と対峙できるのは神職か、玉串奉呈の時だけだそうです。拜殿横にケースがあり、ご自由にお持ちくださいと但し

書きがあり、今月の遺書が置かれていました。この日置かれていたのは、姫野清馬さんのものでした。少し長くなりますが全文を紹介します。
「遺書 海軍二等機関兵曹 姫野清馬命 昭和17年7月5日アリニューシヤン列島アガツ島付近にて戦士 福岡県糸島郡福吉村出身26歳。
母上様には、色々ご心配を掛けまして申し訳ありません。海軍軍人となったこの上は、誠心誠意奮闘する覚悟です。軍人たる者何時身を捨つることあるや、今から決心してあります。母上様の並大抵ならぬ苦勞は、身に沁みて有難いと思つてゐます。小生今までの御不孝をお許し下さい。『一死報國』以つて繕はして戴きます。母上様に対しては深甚の感謝を捧げます。敬具
昭和11年5月30日 姫野清馬 母上様」
というものが置かれていました。



2015年1月25日

いま起きつつあること…

何か違和感を覚えながらも、軍犬慰霊像・戦没馬慰霊像など見て回りました。西川さんは一般人が訪れないような、靖国神社の隅から隅まで案内してくださり、解説をしてくださいました。

何かモヤモヤとした違和感が取れないまま昼食の時間になり、晋ちゃんグッズが売られている外苑休憩所にて名物、靖国蕎麦（850円！）を食べました。

午後は、遊就館という展示施設を見学することになっていました。実は、このツアーに参加した私が、一番訪れた場所こそが遊就館でした。ここに行けば、靖国神社とは何か？ そして、私の抱いている違和感も解決されるのではないかと感じていたのです。

遊就館見学

団体割引で遊就館に入ると零式艦上戦闘機やC56型31号

機関車が展示されている玄関ホールを抜け二階へ。展示室は全部で19あり、思ったよりも見応えがあります。

展示室1は「武人のこころ」という部屋で、元帥刀を中心に著大な和歌が展示されており、先人たちがいかにしてこの国を守ろうとしてきたのが紹介されていました。

この第1展示室から始まり、日本の武の歴史・明治維新・西南戦争・靖国神社の創祀・日清戦争・日露戦争パノラマ館・日露戦争から満州事変・招魂齋庭・支那事変・大東亜戦争1・大東亜戦争2・大東亜戦争3・大東亜戦争4・大東亜戦争5・靖国の神々1・靖国の神々2・靖国の神々3・靖国の神々4と、それぞれの展示室を見学し、最後に大展示室に。

ここには、人間魚雷「回天」・ロケット特攻機「桜花」・艦上爆撃機「彗星」が展示されています。

靖国神社を見学して感じたこと

遊就館を見学し思ったこと、それは（過去の侵略戦争を正当化する）というコンセプトのもとに作られたのだと思わされました。侵略戦争を美化し、国のために戦わせて戦死させた人々を「英霊」として崇め奉る。このことのために靖国神社は存在するのだと思いました。

この侵略戦争で亡くなったのは何も靖国に「英霊」として祀られている人たちだけではありません。日本軍の侵略によって亡くなった他国の方々は、靖国に祀られている人たちよりもはるかにたくさんいたでしょう。しかし、そのように他国に計りしれない惨禍をもたらしたことにはお構いなしに、ひたすら「戦死者」たちを「日本を守った英霊」として崇め奉っています。

侵略戦争をしかけ、「お国」

のためにと戦死させた人々を、日本を守った人たちと言い換えて、侵略戦争を正当化しようとしているのが、はっきりと分かります。

どのような旗を掲げた戦争であっても、認められるべきではありません。そこには、侵す者と侵される者がいるのですから、変な理屈をつけて戦争を正当化してはいけません。

不思議なことに、外苑売店で大々的に売られていた安倍首相関連のお菓子は、憲法9条改定、集団的自衛権行使という、戦争へのお膳立てをしているのではないかと思われる安倍首相への靖国神社側からのエールとしてしか受け取れません。

私が靖国神社に対して覚えた違和感とは、侵略戦争を美化し、侵略戦争は正しいものなのだと言信し続けている姿なのでした。

（希望が丘教会・田名綱仁）